

(2)その他、特筆すべき教育・研究・診療・社会貢献活動等への取組と成果、世界的位置付け( ISI citation など)など。\* ISI データのない場合は、可能であればいろいろな指標を使って国内的位置づけを示す。

分野	取組と成果、世界的位置づけ	18年度の状況
<p><b>特筆すべき教育活動</b></p>	<p>1.高度環境政策・技術マネジメント人材養成ユニットを設置し、環境政策・技術分野に関する即実践型環境リーダーを養成している。</p> <p>2.「ヒューマン・セキュリティと環境」コースを設置し、人間の生存と尊厳に対する脅威について、食糧、健康、環境、社会などの領域横断的な諸問題の複合的構造を理解し、国内・国際社会において人間諸個人の安全保障を実現するための政策立案や実社会の分野で活躍できる専門家・リーダーを育成している。</p> <p>3.学生自身によるヒアリング・調査・討論・ディベートを少人数のグループで行う非座学教育を、教育学研究科教員の協力の下に実施している(環境科学演習)。</p>	<p>1.後期課程の学生を受け入れ、後期課程の教育を開始している。</p> <p>2.平成19年度から開始している農学研究科との修士課程ダブルディグリー・プログラムの準備を行った。</p> <p>3.平成19年度からの環境科学演習の本格実施に向けて、17年度に引き続き小規模での実施とノウハウの蓄積を行った。</p>
<p><b>特筆すべき研究活動</b></p>	<p>1.同和鉱業(株)との包括的研究協力協定の締結：同和鉱業(株)とはこれまでも磁気記録用鉄粉を始めとする材料や土壌汚染物質の状態評価と土壌修復技術などに関する共同研究を実施していたが、平成16年4月9日に包括協定を締結し、さらに広範囲な協力関係が構築され、共同研究が進められている。これに先立ち、平成16年4月1日より寄附講座がスタートし、水熱化学を様々な環境技術へ応用するための基礎研究と実用化研究が実施されている。</p> <p>2.上記寄附講座及び本研究科基幹教員が中心となり、JST公募によるプロジェクト「地圏インフォマティクスのシステム開発と全国展開」を17年度より実施している。このプログラムは安全に国土を利用していくために必須の情報を与える重要な研究である。</p> <p>3.(独)産業技術総合研究所との包括的研究協力協定の締結：環境・エネルギーに関する共同研究をスタートしており、平成19年度には(独)産業技術総合研究所との連携講座が設置されることになっている。</p>	<p>1.これまでの研究を継続し、成果の公表を行った。</p> <p>2.研究期間の2年目を迎え、中核となる研究成果を上げつつある。</p> <p>3.連携講座設置のための準備を行った。</p>
<p><b>特筆すべき社会貢献活動</b></p>	<p>1.宮城県との包括協定の締結：平成16年11月に包括協定を締結し、宮城県への経済再生戦略への提言、環境やエネルギーに関する基本計画、環境基準の策定への参画を行なうとともに、環境・エネルギーに関する包括的共同研究を推進している。</p> <p>2.出前授業の実施、県民大学の開催、リカレント公開講座の開催：平成15年の開設同時から毎年、宮城県内の小中学校へ出向き、エネルギー・環境に関連した出前授業を行なうとともに、社会人を対象とした県民大学、リカレント公開講座を毎年開催し、エネルギー・環境問題に関する先端技術を分かりやすく解説している。さらに、一般市民を対象とした環境フォーラム、技術者を対象とした環境技術シンポジウムを開催し、本研究科で得た最新の研究成果を広く公開している。</p>	<p>平成18年度は、出前授業を延べ4回実施した。また「地域・時代による「環境問題」の諸相と巨理町」をテーマにみやぎ県民大学を開催するとともに、環境問題をテーマにした4つのリカレント公開講座を開催した。</p> <p>第11回・12回環境フォーラム及び第4回環境技術シンポジウムを開催した。</p>